

目次

(258) 共用品推進機構関連記事

「ADに障害者の声を / (財) 共用品推進機構 星川安之」  
「バリアフリームーブメントVol.58. / (財) 共用品推進機構 森川美和」  
「これっていいかも『まもるくん10』 / (財) 共用品推進機構 金丸淳子」  
「誰でもやさしく、銀行取引図式化 / 全国銀行協会」

(259) 賛助会員ニュース

「印刷ユニバーサルデザインをビジネスチャンスに！ / ブライト」  
「障害者の実像、漫画で共感 / 小学館」

(260) 製品関連記事

「書類が隅々まで見やすいクリアブック / リヒトラブ」

(261) その他、各種関連記事

「障害者の仕事、ITで支援」

(262) 新刊紹介

『自閉症児のための視覚支援で始まる親子のコミュニケーション』  
『自閉症の子どもたちの生活を支える すぐに役立つ絵カード作成用データ集』  
『高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LDの子のSSTの進め方 特別支援教育のためのソ・シャルスキルトレーニング(SST)』

-----  
(258) 共用品推進機構関連記事

「ADに障害者の声を / (財) 共用品推進機構 星川安之」

高齢化社会到来に向けた社会基盤整備が国際的にも強く求められるなか、日本では世界に先駆けてアクセシブル・デザイン(AD)に関するJIS規格を設けつつあり、中国・韓国と共同して国際規格化に向けた働きかけもしている。こうした動きを踏まえ、ISO(国際標準化機構)は昨年11月、日本が主導してISO内にADに関する諮問委員会を設置した。今後、IDA(国際障害同盟)に加盟するWBU(世界盲人連合)など障害当事者団体にも参加してもらって声を反映させたいと協力要請を開始した。経済産業省では、平成18年11月に策定した「国際標準化戦略目標」の下、日本発の技術に基づく国際標準の実現を目指し、ADにかかわる国際標準化について産業界などと連携して、予算措置を含め、積極的に支援していくという。  
(点字毎日・2008年2月14日・7面より一部抜粋)

「バリアフリームーブメントVol.58. / (財) 共用品推進機構 森川美和」

今号では、サントリー(株)が取り組むバリアフリーについて紹介。ビンの左右横についた“くびれ”で持ちやすくしただけでなく、ビンの肩周辺に「ワイン」という点字も付いているオーガニックワイン「葡萄のこぼれ」と、より多くの、幅広いお客さまに満足いただけるホールを目指して全面改修を行い、2007年9月にリニューアルオープンした「サントリーホール」を紹介している。  
(『女性セブン』2008年2月21日号より抜粋)

「これっていいかも『まもるくん10』 / (財)共用品推進機構 金丸淳子」

火災警報器「まもるくん10」は、子どもからお年寄りまで聞き取りやすい周波数帯の音を採用し、万が一、火災が発生したときは「火事です！火事です！」という音声で知らせると同時に、赤い警報灯が点灯する。天井、壁のどちらでも簡単に取り付けでき、配線は不要。電池寿命は約10年で、電池寿命が近づくと音声警報が鳴り、警報灯が点滅する。耳の不自由な方や少し耳が不自由になったお年寄りのいる家庭では、廊下や別の部屋にフラッシュライトやブザーを増設することもできる。発売元は能美防災株式会社。  
(シルバー産業新聞・2008年2月10日・10面より一部抜粋)

「誰でもやさしく、銀行取引図式化 / 全国銀行協会」

全国銀行協会は、聴覚障害者や外国人でも銀行で容易に取引ができるように、主な手続きや仕組みをわかりやすく図式化したイラストを作製した。銀行業界で統一したものとして使いたい考えで、加盟行への導入を促すほか、信用金庫や信用組合にも普及を呼びかける考えだ。イラストに描かれたのは、口座開設や現金の預け入れ方法のほか、手続きに必要な印鑑や通帳の図柄など計20種類。聴覚障害者らへの聞き取り調査から、分かりやすさを追求した。イラストの作製にあたっては、共用品推進機構も協力している。  
(朝日新聞・2008年2月11日・9面より一部抜粋)

---

## (259) 賛助会員ニュース

「印刷ユニバーサルデザインをビジネスチャンスに！ / ブライト」

印刷・DTP関連業界向け月刊誌「プリンターズサークル 2月号」誌上で、株式会社ブライトの渡辺慶子専務取締役が、ユニバーサルデザイン(UD)の動向を探った。UDに関する基礎知識やUD印刷の事例紹介をはじめ、UD印刷のビジネスチャンスの可能性や今後の課題について、読者アンケートの結果を踏まえ、分かりやすく説明している。渡辺氏は、「この記事を読んでくれた方の一人でも、『さまざまな人に配慮しなければいけない』『印刷はモノではなく、機能なのか！』などの『気づき』をスタートに、新たなビジネスチャンスをつかむことを期待します。」と結んでいる。  
(プリンターズサークル2月号・44～50ページ)

「障害者の実像、漫画で共感 / 小学館」

聴覚障害と知的障害などが重なった子と家族を描いた山本おさむさんの漫画「どんぐりの家」の続編、「どんぐりの家～それから～」(小学館)に共感が広がっている。高齢の聴覚障害者と、06年施行の障害者自立支援法が障害者にもたらす苦悩がテーマだ。年間5回発売のビッグコミック増刊号で06～07年に掲載された7話が、07年10月に単行本で発売された。小学館によると「硬派なテーマの漫画としては異例の早さ」で重版するなど、1万6千部が出た。10代の読者は「障害者の世界がリアルに伝わってくる」と話し、障害者や家族は登場人物に自身を重ね、「作品を読んで、障害者のことを理解してほしいと話す」。  
(朝日新聞・2008年2月14日・13面より一部抜粋)

---

## (260) 製品関連記事

「書類が隅々まで見やすいクリアブック / リヒトラブ」

しっかり見開けて、収納した書類が隅まできれいに見やすい「クリアーブ

ック・ルポ SEIHON(セイホン)。「人と環境にやさしい」が開発  
テーマの文具「リヒトラブ アバンティシリーズ」の新製品。1枚1枚のポ  
ケットを一定の間隔で背部面に溶着。ポケットが大きく見開き、ページめく  
りがスムーズ。ポケット数によって10枚(504円)から60枚(2,100円)まで  
の4種類。

発売元:リヒトラブ  
(日経M)・2008年2月11日・13面より抜粋)

---

## (261) その他、各種関連記事

### 「障害者の仕事、ITで支援」

1998年に厚生労働省が全社員あたりに占める障害者の割合を定めた法定雇  
用率は、民間企業は1.8%。ほとんどの企業で達成できていないのが現状だが、  
IT(情報技術)による支援策がひそかに注目されている。OKI(沖電気  
工業)の特例子会社OKIワークウェルは昨年未、障害を持つ社員の自宅と  
本社などの複数地点をインターネットでつなぐ音声システムを開発した。本  
社や在宅勤務の別の社員とも、資料を共有しながら音声でも文書でもやりと  
りができる。また東芝ソリューションでも、チャットを応用した共有システ  
ムを使い、聴覚障害を持つ社員が会議やシンポジウムに参加しやすいよう、  
環境整備を進めている。

(日経産業新聞・2008年2月9日・6面より一部抜粋)

---

## (262) 新刊紹介

### 『自閉症児のための視覚支援で始まる親子のコミュニケーション』

自閉症の子を持つお母さんたちが集まって始めた「たんぼぼの会」。親子  
療育教室(たんぼぼクラブ)の活動や、家庭での実践の様子、自立課題を写  
真で紹介する。

監修:滋賀県発達障害者支援センターいぶき

編:滋賀自閉症研究会たんぼぼ

出版:エンパワメント研究所

発売:筒井書房

本体価格:1,500円

ISBN:978-4-88720-543-7

### 『自閉症の子どもたちの生活を支える すぐに役立つ絵カード作成用データ 集』

絵やイラストにより理解が可能な低年齢の発達障害児を対象とした絵カー  
ド作成のためのデータ集。母子通園施設、家庭生活、通園施設での集団生活  
、療育センター内のさまざまな医療サービスなどの場面で役に立つ事柄を網  
羅する。

監修:服巻繁(はらまき・しげる)

編著:藤田理恵子(ふじた・りえこ)

出版:エンパワメント研究所

発売:筒井書房

本体価格:1,500円

ISBN:978-4-88720-544-4

### 『高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LDの子のSSTの進め方 特別支援教育のためのソ・シャルスキルトレーニング(SST)』

生活や学習に不応を見せ、問題行動をとる子どもが、社会的に好ましい  
行動ができるようになり、生活しやすくなるよう支援するSST。どんな子  
どもにもSSTが必要かを説明し、SSTのやり方、絵カードを使ったSST  
を紹介。

監修:田中和代(たなか・かずよ)  
著:岩佐亜紀(いわさ・あき)  
出版:黎明書房(れいめいしょぼう)  
本体価格:2,600円  
ISBN:978-4-654-01052-3

---

(編集後記)

昨日、昨夏共用品の授業をさせていただいた都内の小学6年生48名から、手紙が届きました。

文面には、「いつも使っているものに、こんなに工夫があるなんて知らなかった。家でも探したら、色々あってびっくりしました」、「共用品のことを勉強したらもっと知りたくなりました」、「みんなに使える共用品をたくさん開発して作ってください。応援しています」などと、心強く、頼もしい言葉が綴られていました。

小さな応援団のためにも、より充実した事業を展開していかなくはと思いを新たにしたいときでした。(森川)

<http://kyoyohin.org/>